

2006年度（2006年4月～2007年3月）

< 回答23団体 >

共通商品券・プリペイド実績調査結果

< 決算月は会により異なりますが本調査では、2006年4月から2007年3月の実績としました >

1. 概況

2006年度は、2005年度に比べ発行額増加団体がやや増え、減少団体は大幅に減り、両者は同数に近づいた。ただ、全団体の発行総額は6%減で、昨年より2ポイント減少率が増えた。

増加団体の多くは、組合員の購入キャンペーン（田辺市商業協組、館山市商業協組）や祭りの支払いを現金から商品券に切り替え（稲沢市商業協組）、大型店の加入（協組高岡市商店街連盟）などによるもの。

財政難打開やばらまき福祉の見直しなどで敬老祝いや生活保護世帯への見舞いとしての商品券購入を減額・廃止する自治体も増えている。

一方、組合の解散（協組栃尾市商連）や商品券の発行停止（協組柏崎市商連、（社）横浜市商連等）もみられた。廃業などによる加盟店の減少・売り上げ伸び悩み、そして長引く低金利などで運営が厳しくなる団体が増えている。

厳しい状況打開のため、「組合員に共通商品券事業を見直してもらおう」動きも（田辺市商業協組、館山市商業協組など）。

商品券に有効期限を設ける動き（長岡市共通商品券協組、世田谷区振連）も出てきた。

2. 発行回収状況

発行額増は9団体39%、減少は9団体39%

回収額増は7団体30%、減少は12団体52%

【発行】

前年同期比4%以上増加は9団体39%（05年度16%）、4%以上減少は9団体39%（05年度64%）。

発行額全体では前年同期比3%減（05年度4%減）。

館山市商業協組の43%増は、組合員に共通商品券を再認識してもらうため、5%のプレミアムをつけて購入してもらうキャンペーンを2回実施したことと、市職員に購入してもらうキャンペーンを1回実施したことが主因。

稲沢市商業協組の24%増は、おまつりへの支払いなど、共通商品券普及の工夫をしたことなどによる。

板橋区振連の73%減は、05年度は発行したプレミアム商品券を06年度はしなかったことが主因。

【回収】

前年同期比4%以上増加は7団体30%(05年度28%)、4%以上減少は12団体52%(05年度72%)。

回収額全体では前年同期比3%減(05年度4%減)。

板橋区振連の55%減は、発行額減に伴うもの。

3. 主な動き

有効期限付きに

- ・購入客の抵抗なし、もらう人への周知が課題

長岡市共通商品券協組は2006年5月から、世田谷区振連は同6月から、それぞれ商品券の有効期限を無期限から5年弱とした(長岡の06年度発行分有効期限は11年2月20日、世田谷の06年度発行分有効期限は10年12月末)。

「発行高が落ちるのでは?と少し?心配もしていたが、販売店に尋ねると購入される方がショーケースの見本券の期限をみて4、5年もあるなら・・・と安心して購入されていかれるとのこと。今後は、いただいた方がずいぶん時間が経過してから、包装を開けたら、期限付き商品券だったなんて知らなかった!なんてことがないように対応していきたい」(長岡市共通商品券協組事務局)。

世田谷区でも、「手持ちの有効期限無期限の商品券も期限つきになるのか」という質問が多少あった程度で、反発などは聞かれないという。

(注)有効期限を設けた団体では、有効期限無期限で販売した以前の商品券については無期限で回収を受け付けている。

- ・2007年度発行分から有効期限付きに

田辺市商業協組は、07年6月発行分の商品券から有効期限を約5年とした。07年度発行分の有効期限は11年12月末となる。

板橋区振連も07年度発行分から約3年間(07年度発行分の有効期限は10年3月末)となる。

千円券を廃止

- ・水沢商店協組は、06年6月に千円券を廃止、500円券のみとした(商品券についてはおつりを出さないことにしているため、千円券の利用が少ないため)

行政の買い上げ減少ないし廃止

神辺町が06年3月に福山市と合併したことに伴い、行政による敬老祝い用商品券(協組神辺わかば会発行)購入が廃止された。

世田谷区は従来、世田谷区振連の共通商品券を生活保護世帯へのお見舞い用に購入していた分を廃止した。また、敬老祝い用の購入も減少した。

秋田市は、介護世帯へのお見舞い用にあきた共通商品券協組の共通商品券を購入していたが、06年度からとりやめた。

一方で、地域商業振興の観点から、市町村職員が地元商業団体発行の共通商品券を購入する動きは徐々に増えている。

発行停止や組合解散

加盟店の減少や財政状況悪化などのため長年続けてきた共通商品券発行业を停止する団体が出てきた。

- ・協組栃尾市商店連合会(06年2月発行停止。同10月に組合解散。約200万円ほどの未回収分は同協組が長岡市共通商品券協組に預託した)
- ・協組柏崎市商店連合会(06年8月末発行停止。回収業務は継続)
- ・(社)横浜市商店街総連合会(06年9月末発行停止。回収業務は継続)
- * 協組燕市商店連合会も発行停止。

プリペイドカードの取り扱い停止

鳥山駅前通り振組はカードシステムのリニューアルに伴い、06年3月末でプリペイド入金を停止、同6月4日で加盟店での利用を打ち切った。未利用分(100万円弱)は事務局で返金を受け付けている。

・松葉町商店会協組 06年9月末でプリペイド入金、同11月末で加盟店利用は打ち切った。理由は、「データの改ざんが比較的容易な磁気カードなので事故が起こらないうちに」。未利用分(30万円弱)は事務局で返金を受け付けている。

ホームページ充実

協組神辺わかば会、協組新潟市商店連合会、長岡市共通商品券協組などが、ホームページによる共通商品券事業の告知強化に努めている。わかば会は、広島県中小企業団体中央会の支援でホームページのリニューアルをした。

大型店の加盟

協組高岡市商店街連盟に06年6月末、イオン高岡S Cが加盟した。06年度の共通商品券販売は120万円販売、回収は506万円(06年11月から加盟した同S Cの専門店街は回収68万円)。

その前から加盟の別の高岡市内イオンは260万円(前年は160万円)販売、回収は818万円

販促

・商店街夜店でダーツ抽選

協組神辺わかば会は、7月の商店街水曜夜店で、商品券買い上げ者に最高10倍分のスタンプ当たるダーツ抽選。1,111万円分を販売。

・20周年記念謝恩祭

長岡市共通商品券協組が昨年11月から12月にかけて3千円利用ごとに抽選券を進呈。景品は全て商品券で、1等5万円分4本、5等千円分600本まで。

・パチンコ店組合がキャンペーンに購入

館山市のパチンコ店組合が、館山市商業協組の共通商品券をキャンペーン用に購

入した。

組合員の購入促進

- ・年間6万円分の購入を努力目標に

田辺市商業協組は、組合員店舗が毎月5,000円、年間6万円分の共通商品券購入をするよう05年度から申し合わせ、06年度も継続している。これは、共通商品券の普及のほか、組合員同士の消費促進を期待するもの。

- ・20周年の一環、5%のプレミアム

館山市商業協組は06年度、8～9月と2～3月の2回、組合員に共通商品券を見直してもらうため、1万円につき500円の商品券を1枚サービスする組合員向けキャンペーンを20周年記念事業の一環として実施した。